

診療認定医（Ⅰ）呼吸器外科コース

1. 診療科（専門領域）

呼吸器外科コース

2. コースの概要

2年間の新臨床研修プログラムを終了した者で、呼吸器外科領域の研修を希望する者に対して行う。

3. 取得資格

国立病院機構による診療認定医（Ⅱ）資格

日本外科学会認定医資格

4. 長期目標

呼吸器外科全般に及ぶ知識と技術の取得を目標とする。長期的には呼吸器外科専門医など専門分野の専門医取得せしめる。

5. 取得手技

呼吸器外科手術手技の初期から中期段階の手技を取得させる。その他、気管支鏡検査、呼吸器レントゲン検査、胸腔穿刺、胸腔ドレナージ・カテーテル挿入手技、一般外科検査手技取得させる。学会・研究会に参加、発表し、研修期間中に少なくとも一編の論文をまとめる。

6. 研修期間

3年間

7. 募集人数

1名

8. 診療科の実績と経験目標症例数

主要疾患	入院数（年間）	経験目標症例数（3年間）
肺癌	120	240
転移性肺腫瘍	10	20
縦隔腫瘍	15	20
膿胸・炎症性肺疾患	15	30
気胸・嚢胞性肺疾患	50	100
漏斗胸・胸郭異常・外傷・その他	25	50

手術	件数（年間）	経験目標件数（3年間）
肺葉切除	45	100

肺全摘・胸膜肺全摘	6	8
肺部分切除・肺生検	74	160
縦隔腫瘍切除	15	20
膿胸・炎症性肺疾患手術	13	25
漏斗胸・胸郭異常手術	36	40
胸腔鏡手術*	154	300

注) *上記胸腔鏡手術数は他の手術数と重複しています。呼吸器外科は平成16年度に新設された科で、上記手術件数は最近1年間のものです。手術症例数は急増中で、今後さらに増加するものと予想されます。

9. 診療科の指導体制

診療科医師数 常勤 3名、非常勤 0名

診療科研修の指導にあたる医師 3名

主として研修指導にあたる医師の氏名 坂本 和裕

〃 診療科経験年数 24年

10. コンセプト

呼吸器外科の豊富な症例を経験し、専門的知識ならびに呼吸器外科全般の診療・技術の充実に図るとともに、当科の得意とする胸腔鏡下手術手技を修得せしめる。また、外科専門医制度に基づく外科専門医、そして呼吸器外科専門医を取得するための手術経験をつむため、3年間で消化器・一般外科ならびに心臓血管外科と連携し修練を行う。また呼吸器外科診療に関連する種々の専門医(呼吸器内視鏡学会専門医、内視鏡外科学会専門医、がん治療学会認定医など)の取得に必要な症例・学会発表を経験せしめる。

11. 一般目標

呼吸器外科領域に関する幅広い知識を習得する。臨床経験をより広くするために後期研修期間中に呼吸器外科以外に消化器・一般外科、心臓血管外科もローテートするものとします。呼吸器外科患者の主治医として、患者さんからの問診、理学的所見、種々の検査所見から診療に必要な情報を得ることができ、上級医に適切なタイミングでコンサルトでき、また関連診療科と連携して幅広い視野からの治療計画の立案が出来るようになる。

12. 関連領域の研修に関して

施設内での研修	可能
施設外との交流研修	可能、目標達成が見込まれる研修医においては短期間の海外研修も可能
研修領域の決定	研修責任者が本人の意向を聴取し相談のうえ決定する

13. 共通領域研修について

呼吸器科、消化器・一般外科、心臓血管外科、救命救急センター、麻酔科等関連する科を本人と相談して決定。

【呼吸器外科プログラム】

1. 診療科（専門領域）

呼吸器外科コース

2. 研修期間

3年間

3. 募集人数

1名

4. 短期目標

呼吸器外科全般に及ぶ知識と技術の取得を目標とする。長期的には呼吸器外科専門医など専門分野の専門医を取得せしめる。

5. 短期取得手技

呼吸器外科手術手技の初期から中期段階の手技を取得させる。その他、気管支鏡検査、呼吸器レントゲン検査、各種ドレナージ・カテーテル挿入手技、一般外科検査手技を取得させる。

6. 診療科の実績と目標症例数

主要疾患	入院数（年間）	経験目標症例数（3年間）
肺癌	120	240
転移性肺腫瘍	10	20
縦隔腫瘍	15	20
膿胸・炎症性肺疾患	15	30
気胸・嚢胞性肺疾患	50	100
漏斗胸・胸郭異常・外傷・その他	25	50

手術	件数（年間）	経験目標件数（3年間）
肺葉切除	60	100
肺全摘・胸膜肺全摘	5	8
肺部分切除・肺生検	80	160
縦隔腫瘍切除	10	20
膿胸・炎症性肺疾患手術	15	25
漏斗胸・胸郭異常手術	30	40

7. 診療科の指導体制

診療科医師数 常勤 3名、非常勤 0名

診療科研修の指導にあたる医師 3 名

主として研修指導にあたる医師の氏名 坂本 和裕

//

診療科経験年数 24 年

8. コンセプト

呼吸器外科の豊富な症例を経験し、専門的知識ならびに呼吸器外科全般の診療・技術の充実を図るとともに、当科の得意とする胸腔鏡下手術手技を修得せしめる。また、外科専門医制度に基づく外科専門医、そして呼吸器外科専門医を取得するための手術経験をつむため、3 年間で消化器・一般外科ならびに心臓血管外科と連携し修練を行う。また呼吸器外科診療に関連する種々の専門医(呼吸器内視鏡学会専門医、内視鏡外科学会専門医、がん治療学会認定医など)の取得に必要な症例・学会発表を経験せしめる。

9. 共通領域研修について

呼吸器科、消化器・一般外科、心臓血管外科、救命救急センター、麻酔科等関連する科を本人と相談して決定。